



© 山口県

「ちよるる」のよくわかる雇用情勢(平成30年1月)

雇用情勢総合判断

山口労働局

着実に改善が進んでいる。(1年5か月連続)

【参考】過去の基調判断

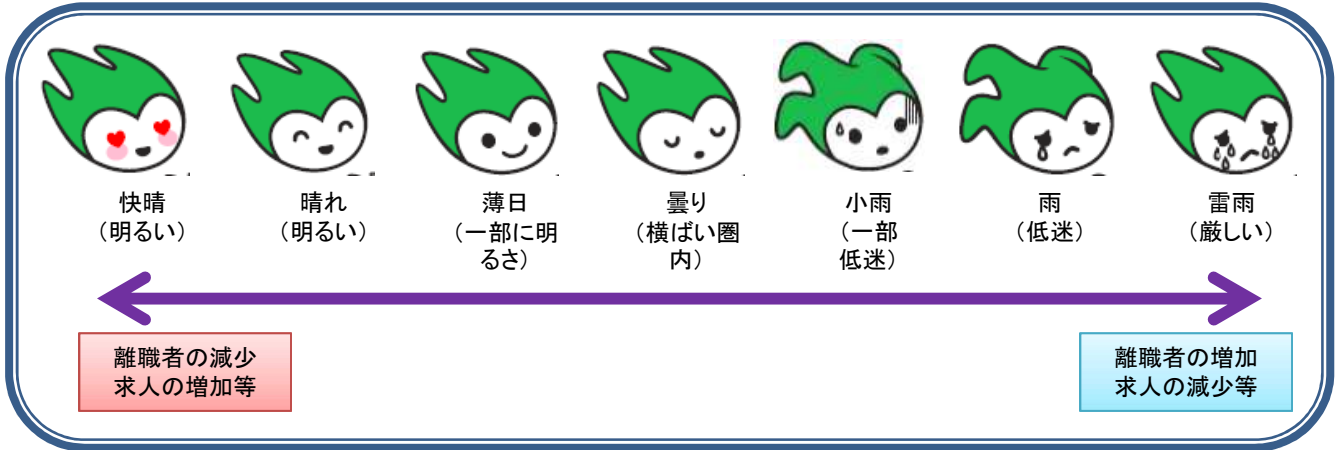
平成26年12月～「一部に厳しさが残るものの、着実に改善が進んでいる」

平成27年 5月～「一部に弱さが残るものの、着実に改善が進んでいる」

平成28年 9月～「着実に改善が進んでいる」

総合判断	新規求人数 (季節調整値)	新規求職者数 (季節調整値)	正社員求人倍率 (原数値)	就業地別求人倍率 (季節調整値) 【参考指標】
快晴(明るい)	晴れ(明るい)	快晴(明るい)	快晴(明るい)	快晴(明るい)
有効求人倍率 (季節調整値) 1.57倍 前月比0.06P上昇	10,557人 前月比5.4%減少 2か月ぶりの減少	4,745人 前月比4.0%減少 2か月ぶりの減少	1.23倍 前年同月比0.14P上昇	1.81倍 前月比0.06P上昇 * 統計のある平成17年 2月以降、過去最高

雇用失業情勢現状判断の7類型



県内経済の判断

山口県金融経済情勢:30年1月(日本銀行下関支店)

県内景気は、緩やかに回復している。(前回比較:基調判断は同じ)

山口県内の経済情勢:30年1月(財務省中国財務局山口財務事務所)

県内経済は、緩やかに回復しつつある。(前回比較:引き上げ)

◎用語の解説

○季節調整値

求人数や求職者数は経済状況だけでなく、季節的な理由により、一定の規則性をもって変化する数字(原数値)をみるだけでは、変化が経済状況によるものか、季節的な理由によるものかわからないので、「季節的な変化を取り除いた数値」で比較する必要があり、これを「季節調整」といい、季節調整を行った数値を「季節調整値」という。
(季節調整値＝原数値÷季節指数×100)

○新規求人数

期間中に新たに受け付けた求人数(採用予定人員)をいう。

○月間有効求人数

前月から繰り越された有効求人数(前月末日現在において、求人票の有効期限が翌月以降にまたがっている未充足の求人数をいう。)と当月の「新規求人数」の合計数をいう。

○新規求職申込件数

期間中に新たに受け付けた求職申し込みの件数をいう。

○月間有効求職者数

前月から繰り越された有効求職者数(前月末日現在において、求職票の有効期限が翌月以降にまたがっている就職未内定者の求職者をいう。)と当月の「新規求職申込件数」の合計数をいう。

○求人倍率

求職者に対する求人数の割合をいい、「新規求人数」を「新規求職申込件数」で除して得た「新規求人倍率」と、「月間有効求人数」を「月間有効求職者数」で除して得た「有効求人倍率」の2種類がある。

○正社員

パートタイムを除く常用のうち、勤め先で正社員、正職員などと呼称される正規労働者をいう。

【参考】中国地方の動向 有効求人倍率(季節調整値)

	29年11月	29年12月	30年1月
山口県	1.51	1.51	1.57
鳥取県	1.68	1.69	1.68
島根県	1.65	1.68	1.67
岡山県	1.82	1.85	1.87
広島県	1.93	2.00	1.98
全 国	1.56	1.59	1.59

* 平成29年12月以前の数値は新季節調整値で改訂されている。